

<エッセイ> 旅行記

◆ 城めぐり ◆ 佐々木 進 (S40S)

今、静かなブームを呼んでいる「日本100名城」のガイドブックを購入したのは2016年4月3日である。

2016年は勇んで、22箇所もまわってしまった。



各お城では表門、史跡広場、文化財センター等にスタンプの設置場所があり、スタンプ帳に押すのが楽しみな一面もある。

私の仕事は、主に関東一円であるが、時々遠方の仕事も依頼されるので、その際には必ずと言っていいほど、観光地巡りを楽しんだものである。その中で、特にお城があるところは、嬉しかった。今回は、「新発田城」を紹介する。

秋田ふるさと応援団との「ふるさと訪問」が終わり、角館駅で散会の後、秋田駅から羽越本線の列車に乗り、到着時間の関係で途中下車し、酒田駅のビジネスホテルで一泊、翌日その先にある「新発田駅」で下車した。街中を20分ほど歩いて抜けると大きな外堀が現れ、すぐに重厚な本丸表門がみえる。門脇には二人の親切なガイドさんがおられ、説明を聞いた。



現在は敷地の広さとしては、わずかばかりで、ほとんどが自衛隊の駐屯地となっているこじんまりとしたお城である。また、平成16年に再建された三重三階の三階櫓は残念ながら駐屯地側に入場はできず、遠望するのみである。三階櫓と辰巳櫓の屋根には鯉が乗っていて、キラキラと光っていた。

最後に表門を出るとすぐ横に、石碑があった。その文面を記すと、「赤穂浪士の一人である堀部安兵衛の父は新発田城辰巳櫓の管理責任者でしたが、失火の責任から藩を追われて浪人になった。ほどなく父は死去、安兵衛は家名再興のため江戸に出て名をあげ、いつの日か赤穂浪士になったのでした」というエピソードがのっていた。新しい発見です。



帰りに駅前近くの真新しい和食屋さんにお邪魔しましたが、その「ごはんのおいしいこと、さすが新潟だなあ」と思った。

勿論泊まりは長岡のホテルですが、翌日は旧日本海軍の名将「山本五十六」幕末の長岡藩家老「河井継之助」の記念館に立ち寄り、それぞれの時代背景を深く感じました。

<漢詩：律詩>

金沙の訓(おし)え

心 藍 質 軽 東 西 春 古 金  
底 旗 実 日 望 方 風 校 砂 訓  
此 和 剛 金 太 日 揺 門 王 子 雲  
残 這 健 砂 平 本 柳 中  
存 語 魂 訓 山 海 芯 在

王子雲 (S43E)  
古(いにしえ)の校、門中に在り  
春風に、柳芯揺れる  
西方日本海、東望太平山  
軽日、金沙の訓え、質実剛健の魂  
藍旗和し、這(こ)の語  
心底にこれ残存(のこ)らん

※意味  
軽日：若い日々、和：～と  
藍旗：コバルトブルー  
(スクールカラー)の旗

<ことばのあそび> 鈴木 彦之 (S31M)

ことばのあそび  
人は方言をこんなふうと思う  
東京弁は「楷書」だといふ  
早く歩け、モタモタするな、このバカ  
大阪弁は「草書」だといふ  
あんた、なにやってんねん、ほんまにアホやねん  
秋田弁は「カタカナ」  
オメ、エジキタ、アシタカエルテガ、ヘバ、パイ  
鹿児島弁は「ひらがな」  
おいどんは、あんどんつけて、まなんだばい  
茨城弁「だつべ語」  
このあんこもち、んめがつたつべ  
青森・津軽弁「わかんない？」  
○×△◇☆※#b・・・  
共通語「結構」  
「ケッコウデス」はYESかNOかわからない

<ショートエッセイ with フォト> 日々の朝散歩から

船木 一美 (S48M)

H28.11.24の朝 首都圏54年ぶりとかの11月の積雪があった。道を白く覆った雪はすでに消え、少し寒いか?と思える以外、何も変わらないいつもの11月に戻ったような翌朝、いつものように散歩に出た。9時までは戻つたものの最短コース。降雪の名残があれば、などと思いつついつもの公園を通り抜けた。おっ!と目を見張った。珍しくないのかもしれない、だが、自分的には、こんな凍り方の氷を直に見たことって、果たしてあったか?だった。54年ぶりとかの初雪の積雪が、ゆっくり出番待ちしていた初氷を一機に呼び寄せたせい、ということだろうか? 自然が作り出す造形に、改めて脱帽!・・・だった。

布施柿 12月のある日のテレビで、冬に餌の少なくなる鳥たちのために柿の実を意図的に残すという農家の方の話が放映されていた。それを称して「布施柿」というそうである。それから数日経ったある日、いつものように朝散歩に出かけ、特別に目を引くものに出会うこともなく家近くまで来ると、柿の木に数羽のメジロがちよこまかと動き回っているのが目についた。柿の実を一心不乱についばんでいる。ああ!これか。「布施柿」なる言葉をすぐに思い出したのは、いうまでもない。



<フォト俳句> 加賀谷 健治 (S36E)



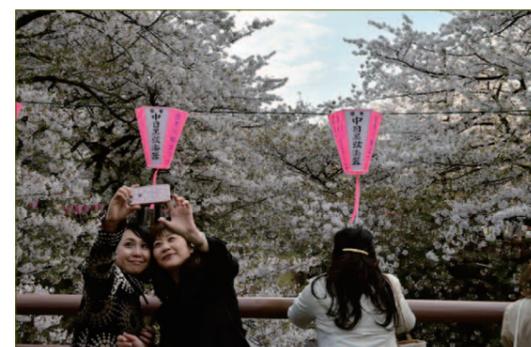
冬  
高齢化  
強き助っ人  
餅つき器

秋  
紅葉が  
もう巡りきぬ  
終の里

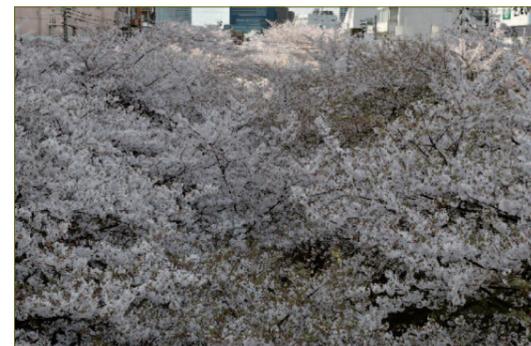
夏  
炎天下  
緑陰に入り  
花めである

春  
高齢者  
百花咲かせし  
散歩道

<写真> 三平 俊悦 (S39A)



目黒川綺麗 私も負けないよ



桜の上 泳げるかな



まだまだ花を 咲かせるぞ

<フォト 5-7-5-7-7> 三浦 芳暉 (S39K)

◆ 一夜だけの開花ショー ◆



月下美人 花の命は短くて 我が人生とは 大違い



< 5-7-5 > 王 子雲 (S43E)

「春：梅の下の絵馬」  
梅仰ぎ 絵馬カラカラと 朝の風



武甲山雪の杉広場

「冬：武甲山」  
ひと休み 武甲登山の 雪広場

「秋：猫」  
ススキの穂  
揺れて顔出す  
三毛一匹

「夏：早朝のゴルフ場」  
緑光(りよっこ)に  
映える夏芝  
朝すがし